

第5回

スプリング ライアン 講師

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
専門： 認知言語学 第二言語習得論

タイトル：

「認知言語類型論と第二言語習得： 移動・状態変化事象の英語表現の習得をめぐる」

10月23日（木） 12:10～12:50

（40分間：発表25分、質疑応答15分）

※ 昼休みに持参弁当を食べながら

東北大学川内北キャンパス
川北合同研究棟1階101号室

正午PD (Professional Development) 会

Talmy (1985, 1987, 2000など) が認知意味論の挑戦として、事象合成における言語類型化を提案した。

Navarro & Nicholadis (2005), Cadierno (2008), Spring & Horie (2013)などの研究は、Talmyが提案した言語類型化を取り上げ、それを第二言語習得論に適用することにより、第二言語学習者の目標言語のタイプが母語と異なる場合、目標言語におけるフレーム化習得に困難が生じるということを指摘した。

日本語と英語はタイプが異なるため、日本語を母語とする英語学習者にとって、英語の移動・状態変化表現が習得し難いことも指摘されている (Spring & Horie 2013, Spring & Ono in press)。

本発表は先行研究を踏まえ、英語の前置詞・不変化詞・形容詞などの多義性に気付くように指導する必要性を指摘し、且つ発表者の授業で移動・状態変化表現を教えた結果をも示す。

問い合わせ先：

高度教養教育・学生支援機構 学際融合教育推進センター 芳賀 満

E-mail: mhaga@m.tohoku.ac.jp Tel: 3371